

ワークショップ「脳神経科学リテラシーとは何か」の主旨

信原幸弘（オーガナイザー）
東京大学大学院総合文化研究科

科学技術リテラシーの必要性が叫ばれるなか、本ワークショップではとくにそのひとつである脳神経科学リテラシーに焦点を絞って、それが何なのか、どのような知のあり方なのかをいくつかの観点から議論し、その解明を目指す。まず、第一に、哲学的知識論の観点から、脳神経科学リテラシーがどういう種類の知識であるのか、知識としてどんな特徴を有するものなのかを考察する。第二に、脳神経科学リテラシーの授業の効果測定観点から、脳神経科学リテラシーがどのような構成要素からなる知なのかを考察することを通じて、その構造を解明する。第三に、ひとつのケーススタディとして、脳の性差をめぐる通俗科学的言説の分析を通じて、そのようは言説を批判的に受け止めるにはどのような脳神経科学リテラシーが必要かを具体的に考察する。以上の議論を通じて、脳神経科学リテラシーとは何かを明らかにすることを目指す。本ワークショップの発表題目等は以下の通りである。

オーガナイザー：

信原幸弘（東京大学大学院総合文化研究科）

発表題目と発表者：

「脳神経科学リテラシーの実践的探究」

原 塑（東北大学文学研究科）

「脳神経科学リテラシーの知識論

植原亮（日本大学、日本学術振興会特別研究員PD）

「男脳・女脳」言説の中の「脳」

筒井晴香（東京大学大学院総合文化研究科、
日本学術振興会特別研究員DC1）